

本書 p. 178 の例題において一部欠けている箇所がありました。
お詫びして下記のとおり訂正いたします。

株式会社中央経済社

p.178

例題

次の資料に基づいて、共用資産を含む、より大きな単位で減損損失を認識する方法によって、減損損失計上時の仕訳を行いなさい。

[資料]

(単位:円)

	機械A	機械B	機械C	共用資産D	合計
帳簿価額	200,000	280,000	430,000	210,000	1,120,000
減損の兆候	なし	あり	あり	あり	—
割引前将来キャッシュ・フロー	—	320,000	360,000	—	—
回収可能価額	—	—	240,000	—	—

(注) 機械A, B, Cおよび共用資産Dを含む、より大きな単位での割引前将来キャッシュ・フローは1,080,000円、回収可能価額は890,000円である。